説教余滴 2019 年 12 月 8 日、「鳩とカラス」

箱舟から飛び立ったカラスと鳩について考えました。確かに違う。
先ず**ハトは**、ルックスがグー、愛らしいと評価。そうであれば、もっと大事にしたらどうだい。世界中に多種。アメリカのリョコウバトは絶滅。レイチェル・カーソンの名著『沈黙の春』は、最後の一羽は、ウイスコンシン？の石碑に閉じ込められている、と書きました。空が暗くなるほどの大群で飛翔していたのに、どうしてなのか、と考えさせられました。戦中戦後の食糧難時代、鳩は受難、激減。手取りにされ食卓へ。埼玉の越谷市にはシラコバトがいます。最近ようやく数が増えて周辺の岩槻市などにも飛来。子どもたちもそのネクタイを締めた姿に馴染むようになりました。園庭の樹木に止まり、歩き、人気者。鳩の一族は世界中で繁栄しています。欧米、中近東、アジアでは食用になるものもいます。日本のドバト（カワラバト）は食用には適さないと聞きます。孔雀鳩などは見栄えもよく愛されているようです。ほかにカラスバト、アオバトなどもいるそうです。

日本のカラスは、嘴太、嘴細、カチガラス(カササギ、コウライガラス)、ホシガラス、ミヤマガラス、ワタリガラスなどの名を見ます。
ハシブトは、「カアー」と澄んだ声で啼きます。ふといくちばしの上部は、アーチ状を呈する。両足を出してはねるように歩くことが多い。都会地やそれに近い環境を好む。3 月中ごろから産卵期。
ハシボソは、「ガアー」とガラガラ声で啼く。足を交互に出して二足で歩くことが多い。田舎に近い環境を好み、農作物や昆虫などを好む。地上を歩いて活動することが多い。2 月終わりごろ産卵期が始まる。地方都市などでは、両種が共に生息しています。